

I 研究開発の概要

1. 研究委嘱を受けた課題

幼・小・中12年間の学びの適時性と連続性を考えた 連携型一貫カリキュラムの研究開発

2. 研究開発の実施期間

平成17年4月1日より、平成19年3月31日まで

3. 研究のねらい

幼・小・中12年間の子どもの成長と発達の実態に即したカリキュラム内容及び指導方法等を、学びの適時性と連続性の視点から創造するため、教科・領域の枠組みを変更し、教育内容・時期の区切りを弾力化する。幼・小・中接続期のあり方、及び一貫した理念のもとでの指導と評価、持続可能な連携についての研究開発を行う。

(1) 研究仮説

ア どのような手段を考えているか

- (ア) 分野・教科の枠組みを弾力的に設定し直し、各分野教科の『学びの概要』をつくる。
- (イ) 校種間の接続期を重視し、接続期カリキュラムを開発する。
- (ウ) 選択方式導入による、異校種の学習集団における学習の場を設定する。(OWNプラン)
- (エ) 構想-実行-省察のサイクル全体を、カリキュラム開発と捉える。
- (オ) 「発達に添う」「発達を促す」という適時性の視点をカリキュラム開発に活用する。
- (カ) 「協働」を子どもの姿と教師の姿の相似形で捉える。

イ どのような成果が期待できるか

- (ア) 幼稚園から中学校までの長期的な視野に立って教育内容を整理することができる。
- (イ) 学校間移行をスムーズにすることができる。
- (ウ) 子どもの主体性を高め、成長発達を促すことができる。
- (エ) 子どもの学習の成果を吟味してカリキュラムを改善していく教師の能力開発につなげることができる。
- (オ) 子どもの学ぶ意欲を高め、学習成果をあげることができる。
- (カ) 学校を市民的資質能力を育てあう実践コミュニティにしていくことができる。

4. 研究開発3年間の計画

第一年次

- ◆幼・小・中連携型一貫カリキュラムの基本的な考え方
 - ・「協働して学びを生み出す子ども」の定義と実践化の方向
 - ・「適時性・連続性」の定義と検討の方法
 - ・研究授業の進め方と研究評価の方法
- ◆「学びの概要」の初年度案作成
 - ・幼稚園部分の見直し
 - ・適時性と連続性を考慮した「学びの概要」による小・中接続初年度案の作成。

	<ul style="list-style-type: none"> ◆中学校新教科の構想と部分的試行 ◆接続期カリキュラムの検討および試行 <ul style="list-style-type: none"> ・5歳児と小学1年の接続期における特別カリキュラムの実施 ・小学6年と中学1年の接続期における特別カリキュラムの検討 ◆公開授業・公開保育および研究協議会の実施。(平成18年2月開催)
第二年次	<ul style="list-style-type: none"> ◆接続期カリキュラムの実施(幼・小, 小・中) <ul style="list-style-type: none"> ・「幼・小接続カリキュラム」の修正と「小・中接続カリキュラム」の作成 ◆「協働」する学びを生み出す実際指導の開発 ◆学びの環境についての実践研究 ◆「学びの概要」に基づく各分野教科の実践研究 ◆「適時性」の2つの視点によるカリキュラムの開発 ◆OWNプランを小5と中1で実施し, 子どもの反応を分析 ◆「つなぐ科」の試行と実践評価 ◆なかま・創造活動・総合の実践研究 ◆「省察」を取り入れた実践研究の方法およびシステムの開発 ◆公開授業・公開保育および研究協議会の実施。(平成19年2月開催)
第三年次 【本年度】	<ul style="list-style-type: none"> ◆幼・小・中連携型一貫カリキュラムの実施と評価 ◆特に, 幼・小と小・中の接続期カリキュラムの評価と提言 ◆学びの適時性・連続性の視点を生かしたお茶の水プラン「学びの概要」の実践と評価 ◆「協働して学びを生み出す子ども」を育成する具体的な指導方法について提言 ◆中学校新教科「つなぐ科」や, 小・中合同OWNプランの実施と評価 ◆「省察」を取り入れた実践研究の方法およびシステムの開発 ◆公開授業・公開保育および研究開発発表会の実施(平成19年10月31日開催予定)

評価に関する計画

第一年次	<p>【児童・生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等を通して学習内容に対する定着を評価する。 ・新学習分野, 新教科等で育てる資質・能力については, その評価を試行するとともに方法等について検討を加えていく。 ・接続期カリキュラム, 選択方式, 無学年制・異年齢学習集団, 等について, 小学校3年以下には聞き取り調査, 4年生以降には自己評価, 質問紙調査を実施して評価する。 <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発開始時における調査を行い, 子どもたちの実態を把握する。 ・実践に対する調査・分析を行い, 次年度の計画に生かす。 ・公開保育・公開授業および研究協議会を通しての外部評価を行う。 ・研究方法などについての評価を行い, 次年度の計画に生かす。
第二年次	<p>【児童・生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に対する定着を評価する。 ・聞き取り調査, 自己評価, 質問紙調査等を実施して評価する。 <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究2年次における調査を行い, 子どもたちの実態を把握する。 ・実践に対する調査・分析を行い, 次年度の計画に生かす。 ・学びの適時性について実験方法などの評価を行う。 ・公開保育・公開授業および研究協議会を通しての外部評価を行う。 ・研究方法などについての評価を行い, 次年度の計画に生かす。

<p>第三年次 【本年度】</p>	<p>【児童・生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等を通して学習内容に対する定着を評価する。 ・聞き取り調査, 自己評価, 質問紙調査等を実施して評価する。 ・学びの概要について実践を通して調査をし総括的に評価を行う ・幼・小, 小・中の接続期について園児保護者, 小六児童, 中一生徒と幼・小・中教員へのアンケートや学びの履歴から評価を行う <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム案について総括的評価を行う。 ・研究方法などについての評価を行い, 研究の総括を行う。
-----------------------	---

5. 研究組織

今年度(2年次)研究組織

